



～PREVIEW～

2007年12月29日、冬コミ真アニメ！アニメ！スペースで刊行予定の「Robo-Q」のお試し版(プレビュー)を先がけてお届けします。 □ミ

●80年代のファンダムについて

Toys Dream: 80年代中頃のアニメファンダムがどんな具合だったか、少し教えてあげようか？

Grebo Guru: シノプシス(ストーリー概要)のコピー紙を読みながら、字幕も吹替えもついてない番組を観てたんだ…しかも7代目くらいのVHSコピーのね。

Romy: ビバ80年代！

Grebo Guru: Toys Dreamが経験した80年代ファンダムっていうのは、僕のと違う。彼は組織立ったアニメファンダムが生まれた、北カリフォルニアにいたからね。ちなみにToysはアメリカで初めて創刊されたアニメ雑誌に関わってたスタッフの一人だったんだぜ！その一方、僕はニューヨークにいた。アニメファンダムは組織立ったものじゃなかったし、知識も乏しかった。だからアニメやロボに関してはほとんど独学だったよ。まずその違いを先に明確にしておきたかったんだ。じゃ、どうぞ、Toys！

Toys Dream: OK、じゃあ過ぎ去りし80年代のあの頃を語ろうか…まあ、カルト宗教に入るようなもんだね。グノーシス主義の一派で、秘密のシンボルやら密談があったりするよな。僕の場合、輸入されたヤマトのロマンアルバムを地元のコミックショップで見かけたところ、やさしい店員さんが秘密を教えてくれたってわけ。そして知ったのが、全米規模のネットワークでニュースレターやビデオテープの交換が行われていたこと。日本に友達がいる人がわずかながらいて、テレビ番組の録画テープを送ってもらってたんだ…

Grebo Guru: んで、とってもわずかながら、日本語の読める／話

せる人がいて…あるいは彼女が日本人だったり！（笑）

Toys Dream: で、翻訳されてなくて字幕も付いてない、18代目くらいのVHSコピーテープが全米を巡りつつ、ほんの一握りのファンが集まってお互いの家かどこかで鑑賞会を開くんだ。

Grebo Guru: 僕は、マンハッタンの地元にあった日本のビデオショップ、Tokyo Videoでアニメビデオを借りてたな。見つけるのが大変だったよ！！少なくとも1年くらい白人の客は僕だけだった。アニメにハマってる友達っていなかったからね。

Toys Dream: だね。サンフランシスコのジャパントウンもメッカだったな。あそこまでよく巡礼にでかけたもんだよ、Mikado ToysとJapan Videoにさ。そしてその辺りから、少し奇妙な現象が起こりはじめたんだ。

Romy: まだ店ってあるんですよ？

Toys Dream: まだ繁盛してるよ！Mikadoのナカムラさんは全然歳とってないよな一。

Grebo Guru: あの人にはスゴイ。

Romy: インターネットの時代が来るまで、オタク道は孤独なものだったのね。

Toys Dream: 奇妙な現象：Star BlazersやRobotechのような番組がアメリカのテレビで放送されたんだけど、それが日本製であることを一般の人は知らなかった。そこでアニメファンは、啓蒙活動を始めた。とにかく日本アニメに触れてもらおうと、他の作品をいろいろ見せ始めたんだ。宮崎作品、スペースコブラ、ゴーショーグン、とにかく何でも見つけた物をね。でも誰も翻訳できなかったし、まだ家用に字幕を付けるテクノロジーも存在しなかった。画像のボケたVHSテープにも増して最も貴重だったアイテム、それはストーリーの説明文だった。シノプシス(ストーリー概要)やキャラクターリスト…

Grebo Guru: そうだね、僕も皆があまりにもアニメのことを知らなさすぎて、いつもイラついてたよ。

Toys Dream: SFコンベンションに行くだろ、そしたらホチキスで留められたプロットシノプシスの冊子をどっさり持ち帰ってくるんだよ。僕はいまだに持ってるよ！

Romy: シノプシスね、私も覚えてるわ。

Grebo Guru: 僕もいくつか実家の屋根裏にあるよ。

Toys Dream: とにかく、fanzine(ファンの作った雑誌)のAnimag*っていうのは、こうした冊子を光沢紙で多少グレードアップしたようなものだった。編集スタッフも少人数だったしね。そうやって貴重なストーリーの情報も広がっていったのさ！

[*訳注：アメリカ初のアニメ雑誌Animericaの前身となったファン雑誌。編集スタッフが同じ。]

Romy: 私が大学にいたのは90～94年だったから、ファンサブが少しずつ出はじめてたころね。ファンサブ以前がどんなだったか、想像に難くないわ。

Toys Dream: 80年代後半、僕がUCバークレーにいたころ、キャンパスのアニメクラブは、大講堂で字幕なしの状態(RAW)でアニメを上映してたよ。

Romy: わお、皆勇気あるわね…字幕なしで。

Toys Dream: …で、観にきた人にホチキスで留めたシナリオの書き起しを渡すわけ！暗い中、どうやってそれを読めっていうのかわかんないけどさ。

Romy: あははは！そうね、皆どうしたんでしょうね。

Grebo Guru: 僕も大学でアニメクラブを創設したよ。その頃ようやく上映できるだけの字幕版が出るようになってきたからね。大学で「AKIRA」を上映したっけ。

Toys Dream: 1990年くらいになると、ライセンスされた正規の英語字幕版とファン制作による字幕版(通称ファンサブ)がほぼ同時に出回るようになった。基本的にはどちらも同じ字幕付技術を使用しているわけで、時期的に重なったのもうなずける。そして初期アニメファン出身の、日本語

ができる翻訳者の層も厚くなってきはじめてた。

Romy: Toys Dreamはどこかのアニメクラブに所属して活動していたの？今業界で働いている人の多くは、昔クラブに所属していて、何かしらのポジションについていたようだから。

Toys Dream: 特にそんなことはしてなかったな。すでにAnimagスタッフとつるんでたから、クールな俺様にクラブ所属は似合わないって思ってたかも。

Romy: じゃあ、上映会では何してたの？アニメ観て、シノプス読んで、それだけ？それとも観終わった後に皆で内容についてのディスカッションとかしてた？

Toys Dream: 僕は上映会にはあまり行かなかった。上映された作品はほとんどすでに観てたからね。鼻持ちならないよね！だからファンダムにはあまり貢献してないかも。Animagを除いてはね。

Romy: Grebo Guruは？

Grebo Guru: 僕らのところでは、上映の前か後に僕が少ししゃべって、質問を受けたりして説明しようとしてたよ。クラブの中じゃ、僕くらいしかアニメについて詳しく知ってる奴はいなかったからね！

Toys Dream: Grebo Guruこそファンダムの英雄さ！

Grebo Guru: 他のメンバーは単にもっとアニメを見たいファンだったからね。他の大学生を上映会に呼び込んで、アニメの知名度を高めようとした。限られてはいたけど、僕の知識をできるだけ広めながらね。上映するものを選んだだけ字幕付のものを選んでたよ。89年とか90年にはファンサブもあったけど、正規リリース版もあった。

Romy: Toys Dreamの言ったとおりね。なんだかカルト宗教みたい…同類とはあまり認めたくはないけど。

Grebo Guru: カルトっぽかったね。ニューヨークでは、情報源を隠してたやつもいたからね。

Toys Dream: へえ！

Grebo Guru: 知識を溜め込んで、

それを知りたいと思っている人に対してちらつかせて威張ってたんだぜ。

Toys Dream: 知識=権力ってわけだ。

Grebo Guru: コミックショップで出会った男がアニメのビデオテープを持ってたんで、どこで見つけたのか聞いたら“Tokyo Video”だって言うんだ。でも店がどこにあるのか聞くと「忘れた」と嘘をつく。おかげで他のコミックショップでも聞き回ったりして、どこにあるのか見つけ出すまで何ヶ月もかかったよ。電話帳にも載ってなかったからね。

Romy: それって意地悪ね…それにしても本当にシークレットソサエティ（秘密結社）だったんだ！80年代の話って面白いわね。

Toys Dream: 当時と比べて状況はかなり変貌したかな。アニメが入手しやすくなったってだけじゃなく、アニメについての知識そのものがね。ストーリーについての理解力だとか、アニメは日本原産であるっていうのが一般認識されるようになった。で、疑問なんだけど…作品についての知識の探求が困難だったがために、その作品に対する愛着度が増してたってことはない？今じゃ、レンタルで借りて観て理解して、すぐ次の作品に移るっていうのを1日でできちゃうじゃん？

Romy: 多くの古株ファンが、若いファンは今の状態を当然のものと勘違いしてるって嘆いているのを聞いたことがあるわ。

Grebo Guru: 「AKIRA」を英語版で初めて観たときはがっかりしたのを思い出すな。翻訳なしの日本語オリジナルで何度も観ていたから、とってまディープな内容だと思ってたんだ。でも英語で観た途端に、ただのSFアドベンチャーだってわかって…極秘に隠蔽された“真実”なんてなかった。

Toys Dream: 作品を理解しようと奮闘すると、嫌が応にも自身自身の労力と時間を投資することになるよね。

Romy: つまり、やっぱり初期ファンの方がより熱心で献身的だったってこと？それはわかるなー。

Toys Dream: でも最近の試聴方法の方が健全なのかもしれない。それにそっちの方が日本の視聴者と近い経験なのだろうしね。

Grebo Guru: 80年代のころ、アニメがBlockbuster*でレンタルできるような日がくるとは思いもしなかったよ。しかも字幕版と吹替え版の両方で。90年代には字幕版vs吹替え版(Sub vs Dub)論争っていうのが出てきてさ。

[訳注: *大手のビデオレンタルショップ。日本でいうTSUTAYA。]

Romy: それってまだ議論されてるんじゃない？

Toys Dream: Sub vs Dubを論じるのは、もうアニメファンの習慣だね。今は意味のない伝統だよ。

Grebo Guru: DVDの登場で論争には決着が着いたしね。でも90年代はVHSしかなかったから、字幕版か吹替え版、どちらかを買うしかなかった。しかも字幕版は吹替え版よりも値段が高い場合が多かった。販売本数が少ないから、という理由でね。今はDVDのおかげで、どちらかを選んで買う必要はない。字幕と吹替え、両方が含まれてるし、値段の差というものもなくなった。僕もそうだな、最近の試聴手段の方が健全だと思うけど。

Romy: そうね。でも日本のファンの中にはアメリカのファンがファンサブをダウンロードして試聴することを不公平と感じる人もいる。地方では、アニメを放送してなかったり、電波の受信が悪かったりするから…

Toys Dream: 確かにフェアじゃないよね！欧米のファンは今や、甘やかされすぎてる。

Romy: ファンサブやダウンロードについてはまた他の機会にでも話しましょうか。

「Robo-Q」お試し版、いかがだったでしょうか？アメリカのロボットアニメファンに興味のある方はぜひ本編をお手に取ってお読み下さい！今回登場している二人のプロフィールも入ってます。

～冬コミ・スペース情報～
07年12月29日(土)
東E-53a
真アニメ！アニメ！